

あいち国際女性映画祭 2015

昨日のトークから

デイリーニュース vol.3 (2015/9/3)

映画祭 20 回・「北京+20」・国連創設 70 周年記念企画

女性大使ミーティング

「男女平等と女性のエンパワーメントが世界を変える！」

進行役: 国連広報センター所長 根本かおるさん

ディーパ・ゴパラン・ワドワ インド大使 (写真: 右)

どんな国でも女性問題は共通点が多いです。私たちは、同じ問題によってつながれた姉妹であるといえます。女性監督は、女性ならではの繊細な感覚があり、女性問題に対する踏み込み方が大胆です。識字率が 100% でない国があることを考えると、映画はメッセージを伝えるのに良いツールだと思います。



アンドリヤナ・ツヴェトコビッチ マケドニア大使 (写真: 中央)

世界で、女性の監督はおそらく 7% しかいないです。映画制作に携わる女性を支援する機運を高めていかなければならないと思います。女性のエンパワーメントを進める中で、女性が女性であることを忘れてはならないと考えます。女性がリーダーシップを取るという新しいイメージ作りが大切です。

作家 ティン・ティン・ウイン(ジュ)さん (写真: 左)

若者には、古き世代から学び、世の中を変える力を持つ映画や文学などを学ぶことを求めます。そして、古い世代ができなかった経験をしてほしいです。

『シアター・プノンペン』
ソト・クオーリーカー監督
女優 マー・リネットさん

「私が 3 歳の時、ポール・ポトは父を殺しました。この作品

は、娘が母を幸せにしたいと映画を作る話ですが、それは私の物語でもあります。私が知らない父母の恋愛を描き、天国の父にも贈りたかったのです。母は父のことを話しません、この作品で監督が捕まるシーンは、父の時の母の記憶を元に描きました。カンボジア人は必ず誰か身近な人を戦争で失っています。母役ディは 60 年代の人気女優でしたが、海外にいて戦争を知りません。しかし、姉を戦争で亡くしているので、この母の悲しみは理解できると配役しました。」と監督。主演のマーさんはこれを受け、「私たちの世代には過去は忘れるという人もいますが、私は昔に学んで、今後はどう生かすかが大切だと思います。今回の二役のうち、母の若い時代のことはお年寄りの話を聞いた、資料を読んで、どう感じたのかを想像しながら演じました。」と答え、会場の拍手を受けていました。



『カナ 夢を織る女』
イーダ・アニータ・デル・ムンド監督
女優 マーラ・ロベス・ヨコハマさん

「父が映画の脚本家なので、別のことをしようと作家や

バイオリニストとして活動しました。しかし、ティボリ族の伝統文化を伝えたくてこの作品を作り、映画監督になってしまいました」と監督。「撮影はミンダナオ島にあった昔ながらの生活をしている村を探して行いました。建物を伝統に従った方法で作られ、小道具や楽器、衣装などはティボリ族の人から借りた本物を使っています。中には、代々伝わってきた貴重なものもありました」とティボリ族への傾倒を語ります。続けて、「私が結婚式のシーンで着た衣装は、本当のティボリのお姫様の物なんです」とマーラさん。ティボリ語の習得には苦勞したそうですが、「台本に恋し、女優として大きな挑戦だと思って、是非出たかったんです」。11 歳から映画に出て、現在もテレビドラマに出演する人気者でありながら、インディペンデント映画で女優として認められたマーラさん。お父さんは徳之島出身の日本人で、ヨコハマとは全く関係はないそうです。



明日の見どころ

「0.5ミリ」 ウィルホール/12:40~16:00

介護ヘルパーの山岸サワは、寝たきり老人の娘からとんでもないことを依頼される。それをきっかけに、サワは大事件に巻き込まれ、家も仕事も失ってしまう。「放浪の介護ヘルパー」となったサワは、見知らぬ土地でワケありの高齢の男の世話をし、心を通わせていく。主演を務めるのは、監督の実妹である安藤サクラさん。上映後には、安藤監督と奥田瑛二さんのトークショーも行われます。どうぞお楽しみに！



安藤桃子監督 奥田瑛二さん

「フィルム・コンペティション授賞式&グランプリ作品上映」 大会議室/17:00~20:00

いよいよ、長編フィルム部門 6 作品と短編フィルム部門 10 作品の中から、それぞれグランプリと準グランプリ作品が選ばれます。また、短編フィルム部門には、グランプリ・準グランプリの他に、観客の皆さんの投票によって選ばれる”観客賞”が新たに設けられました。それぞれのグランプリ作品が再上映されます。見逃してしまった方ももう 1 度見たい方も是非会場へお越しください！



昨年の授賞式の様子

まつかわゆまの耳寄り情報

『輝けるマロロスの女性たち』9月4日 10時よりウィルホールにて上映

フィリピンは、スペイン、アメリカ、日本の支配を受け、歴史に翻弄された国です。支配国が変わるたびに公用語が替わり、伝統や文化だけでなく教育も分断されてしまいます。そんな歴史の中で戦い続けてきた女性たちのパイオニアが 1888 年にスペイン語夜間学校開設を求めて立ち上がったマロロスの女性たちでした。1888 年当時、スペイン語が読めなければ世界の情勢や思想を知ることができず、一般の女性たちにはその道が閉ざされていたのです。当時の独立運動は留学などで知識を得た上流階級の人々によって担われていましたが、その中から女性のために上流階級の女性自身が始めたのがこの運動でした。後にマロロスに初の共和国首都になります。理想と信念を抱き、女性の社会進出を妨害する勢力にしなやかに抵抗しながら弛むことなく女性のために歩み続けたマロロスの女性たちの姿を描いたドキュ・ドラマです。19 世紀上流階級女性の衣装やたおやかなたたずまいは、はっとするほど美しく、女性ならではの戦い方や絆の強さにグッときてしまいました。

今日のプログラム

4階 ウィルホール

10:00~ 『カナ 夢を織る女』*上映後トークショーあり

13:10~ 『愛する人へ』

15:40~ 『ハノイ 危険な青春』

18:10~ 『日本一幸せな従業員をつくる!』

*上映後トークショーあり

3階 大会議室

10:00~ 『養女物語』

13:00~ 『彦とベガ』

15:10~ 『けんじ君の春』

18:20~ 『そのみにて光輝く』